



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月12日
東

上場会社名 株式会社アイ・ピー・エス 上場取引所
 コード番号 4390 URL https://ipsism.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 宮下 幸治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 中原 茂樹 (TEL) 03(3549)7621
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,308	53.6	1,725	107.3	1,571	88.4	1,105	109.7
2020年3月期第3四半期	4,756	13.6	832	19.9	834	13.6	527	18.1

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,137百万円(98.9%) 2020年3月期第3四半期 571百万円(27.6%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2021年3月期第3四半期	89.41		86.30	
2020年3月期第3四半期	42.90		41.32	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	11,725		6,110		42.2	
2020年3月期	7,790		4,715		49.9	

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 4,947百万円 2020年3月期 3,887百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—	—
2021年3月期(予想)				0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	9,600	47.5	1,900	77.5	1,700	58.1	1,150	78.2	92.99	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) IPS Telecommunication Singapore Pte. Ltd.、除外 1社(社名)ー

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	12,370,000株	2020年3月期	12,350,000株
2021年3月期3Q	226株	2020年3月期	155株
2021年3月期3Q	12,367,105株	2020年3月期3Q	12,291,262株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると当社が判断する一定の条件に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、経済活動に大幅な制約が生じております。当社の主要事業基盤の一つであるフィリピンが位置する東南アジア地域においても、多くの国において経済成長の急激な減速がありました。また、我が国の経済においても、人の移動の制限や経済活動などの自粛により、厳しい状況が続いております。

フィリピンにおける2020年1月～9月の経済成長率は、新型コロナウイルス感染症による内需の悪化が影響し、前年同期比10%減と大幅なマイナス成長となりました。当第3四半期連結累計期間において、円ドル為替レートは108円台から103円台へと円高が進行しました。フィリピンペソはおおむね2.1円台で推移いたしました。

当社の主要な事業領域である通信業界は、通信技術の発達による伝送速度の向上、動画配信サービス等の拡大によるデータ通信量の増加に加え、世界的な移動制限のためWeb会議の増加による通信トラフィックの増加も見込まれます。今後は次世代移動通信（5G）の普及により、携帯端末と基地局との間の通信量が増加し、バックボーン回線についても需要が高まることが予想されます。通信事業者は、ユーザー当たりの通信収入が伸び悩む中、多様な手法で収益の拡大を図っていくことが求められております。

このような状況のもと、当社グループは収益の拡大を図るため、各事業において新規顧客の獲得及び既存顧客との取引の増加を積極的に推進しております。マニラー-香港、マニラー-シンガポールを結ぶ海底ケーブルの使用権を取得し、海外通信事業の成長に必要な投資を積極的に行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,308百万円（前年同期比53.6%増）、営業利益は1,725百万円（同107.3%増）となりました。円高に伴い為替差損を113百万円計上したことから、経常利益は1,571百万円（同88.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,105百万円（同109.7%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(海外通信事業)

当第3四半期連結累計期間の海外通信事業においては、さらなる事業拡大を図るため、マニラー-香港、マニラー-シンガポールを結ぶ海底ケーブル（City-to-City Cable System、以下「C2C回線」）の光ファイバーの一部をIRU（注）にて取得いたしました。C2C回線は10月に開通し、フィリピンの通信事業者などへの提供を開始いたしました。

また、競争が限定的で、インターネット接続サービスを提供している事業者が集まっているミンダナオ島内では、旺盛な需要が期待できることから、地域内のCATV事業者などと協働して通信回線を敷設いたしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で工事に遅れが生じております。

この結果、売上高は3,324百万円（前年同期比249.4%増）、セグメント利益は1,056百万円（同193.7%増）となりました。

（注）IRUとはIndefeasible Right of Useの略で、当事者間の合意がない限り破棄又は終了させることのできない長期的・安定的な通信回線使用権のこと。当社は、主に15年間のIRU契約を締結して国際通信回線使用権を仕入れ、販売しております。

(フィリピン国内通信事業)

当第3四半期連結累計期間のフィリピン国内通信は、前年度に引き続きInfiniVAN, Inc. が、フィリピン国内外の企業の拠点が集まるマカティ市で法人向けインターネット接続サービスの積極的な営業活動を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により新規開拓や光ファイバー網の敷設に影響が生じております。テレマーケティングの拡充など顧客獲得方法を多様化させております。

この結果、売上高は776百万円（前年同期比28.0%増）となりました。セグメント利益については、C2C回線の提供に関するフィリピン国内のバックホール回線の提供による利益の計上がなされたことから287百万円（同306.6%増）となりました。

（国内通信事業）

当第3四半期連結累計期間における国内通信事業は、当社が日本国内の販売代理権を持つ、インドのDrishti-soft Solutions Pvt. Ltd.が開発したコールセンターシステム「AmeyoJ」に、大手電気通信事業者が提供している着信課金サービス（フリーダイヤル）を大量に仕入れて、コールセンター事業者向けに秒単位で販売する秒課金サービスを組み合わせたコールセンターソリューションの売上が拡大いたしました。また新型コロナウイルス感染症の影響による在宅勤務やWeb会議などを活用した事業活動が定着したことにより、通信トラフィックが安定的に増加しております。

この結果、売上高は2,774百万円（前年同期比15.3%増）、セグメント利益は402百万円（同55.3%増）となりました。

（在留フィリピン人関連事業）

当第3四半期連結累計期間における在留フィリピン人関連事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、求人状況に大きな変化が生じて、介護事業者などを除いて求人需要が大きく減少しました。

このような環境に対応するため、比較的求人需要がある介護事業者向けの人材紹介などを中心として事業活動を行いました。今後も厳しい事業環境が見込まれるため、人材関連事業について、2021年1月1日をもって株式会社グローバルトラストネットワークスに事業譲渡いたしました。

この結果、売上高は63百万円（前年同期比59.2%減）、セグメント利益については、47百万円の損失（前年同四半期は53百万円の損失）となりました。

（医療・美容事業）

当第3四半期連結累計期間は、Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporationにおいて新たにマニラ首都圏の新興都市であるBonifacio Global Cityに高所得者を主対象とした病院を2020年3月に開設いたしました。新型コロナウイルス感染拡大によりマニラ首都圏が3月中旬よりロックダウン下に入り、運営している3院とも5月末まで休業を余儀なくされました。ロックダウン解除後に、新型コロナウイルス感染症対策を進めながら、待合室が広くソーシャルディスタンスの確保が図りやすいBonifacio院を中心にレーシック施術などの提供を再開しております。

この結果、売上高は369百万円（前年同期比41.9%減）、セグメント利益は26百万円（同86.7%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は7,308百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,187百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が413百万円、売掛金が528百万円、リース投資資産が1,245百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は4,416百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,747百万円増加いたしました。これは主に、設備投資により有形固定資産が679百万円、通信回線使用権が1,058百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は11,725百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,934百万円増加しました。

（負債の状況）

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は3,828百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,383百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金が170百万円、未払金が399百万円、繰延延払利益が479百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は1,785百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,156百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,614百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,540百万円増加いたしました。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の非支配株主持分を含めた純資産は6,110百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,394百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,105百万円計上し、非支配株主持分が335百万円増加した一方、為替換算調整勘定が48百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は42.2%（前連結会計年度末は49.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間における業績の動向等を勘案し、2020年5月15日に公表いたしました通期の業績予想を下記のとおり修正しております。

業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 8,900	百万円 1,700	百万円 1,650	百万円 1,050	円 銭 84.91
今回発表予想 (B)	9,600	1,900	1,700	1,150	92.99
増減額 (B - A)	700	200	50	100	—
増減率 (%)	7.3%	10.5%	2.9%	8.7%	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	6,508	1,070	1,075	645	52.43

当第3四半期連結会計期間において、海底ケーブルシステムC2C回線が開通したことにより、新たにフィリピンでの通信事業者への提供が開始いたしましたので、通期での海外通信事業の売上、利益の増加が見込まれることとなりました。また、引き続き国内通信事業が好調に推移していることから、2021年3月期の連結業績予想を修正いたします。

なお、今回の業績修正により2021年3月期の営業利益は計画比400百万円増加の2,100百万円を見込んでおり、2019年8月に発行した第7回新株予約権における業績に関する行使条件（株式報酬費用計上後の連結営業利益が1,700百万円を超過した場合に新株予約権の70%の行使が可能）を満たす可能性が高くなったため、第4四半期に株式報酬費用約200百万円を計上する予定です。そのため、表中の営業利益1,900百万円は株式報酬費用を計上後の数値になっております。

上記の業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる場合がございます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,498,411	2,911,756
売掛金	947,936	1,476,268
リース投資資産	1,163,956	2,409,107
商品	37,657	36,123
貯蔵品	47,527	38,256
その他	505,672	584,957
貸倒引当金	△80,060	△148,018
流動資産合計	5,121,101	7,308,451
固定資産		
有形固定資産	1,737,650	2,416,718
無形固定資産		
通信回線使用权	120,027	1,178,141
その他	53,310	61,118
無形固定資産合計	173,338	1,239,260
投資その他の資産		
長期前払費用	384,414	348,897
繰延税金資産	123,579	129,847
その他	250,507	282,268
貸倒引当金	△0	△27
投資その他の資産合計	758,501	760,985
固定資産合計	2,669,489	4,416,964
資産合計	7,790,591	11,725,416

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	419,508	418,094
短期借入金	100,000	270,000
1年内返済予定の長期借入金	344,340	493,300
リース債務	34,004	13,730
未払金	107,158	506,492
未払法人税等	110,615	201,933
繰延延払利益	986,750	1,466,561
賞与引当金	18,549	16,096
その他	324,205	442,708
流動負債合計	2,445,132	3,828,917
固定負債		
長期借入金	449,814	1,559,777
リース債務	10,855	3,454
退職給付に係る負債	36,944	45,361
役員退職慰労引当金	110,589	127,095
資産除去債務	4,205	4,277
その他	17,269	45,971
固定負債合計	629,678	1,785,936
負債合計	3,074,811	5,614,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,064,692	1,066,992
資本剰余金	1,001,067	1,003,367
利益剰余金	1,774,942	2,880,673
自己株式	△194	△311
株主資本合計	3,840,507	4,950,722
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	46,331	△2,245
退職給付に係る調整累計額	1,145	△995
その他の包括利益累計額合計	47,476	△3,241
新株予約権	7,350	7,350
非支配株主持分	820,445	1,155,731
純資産合計	4,715,779	6,110,561
負債純資産合計	7,790,591	11,725,416

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	4,756,539	7,308,259
売上原価	2,902,900	4,377,645
売上総利益	1,853,638	2,930,613
販売費及び一般管理費	1,021,481	1,205,377
営業利益	832,157	1,725,236
営業外収益		
受取利息及び配当金	26,409	17,440
その他	1,105	4,866
営業外収益合計	27,515	22,307
営業外費用		
支払手数料	-	16,858
支払利息	6,514	35,143
為替差損	15,293	113,182
その他	3,477	10,675
営業外費用合計	25,285	175,858
経常利益	834,386	1,571,684
特別損失		
固定資産除却損	5	-
たな卸資産評価損	6,420	-
臨時休業等による損失	-	47,956
特別損失合計	6,426	47,956
税金等調整前四半期純利益	827,960	1,523,727
法人税等	249,052	330,319
四半期純利益	578,908	1,193,408
非支配株主に帰属する四半期純利益	51,662	87,677
親会社株主に帰属する四半期純利益	527,245	1,105,731

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	578,908	1,193,408
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△6,732	△56,083
退職給付に係る調整額	△256	△53
その他の包括利益合計	△6,989	△56,137
四半期包括利益	571,919	1,137,270
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	524,282	1,059,469
非支配株主に係る四半期包括利益	47,636	77,801

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間より、IPS Telecommunication Singapore Pte. Ltd.を会社の新設にともない、連結の範囲に含めております。その後、第2四半期連結会計期間に同社への増資を実行した結果、同社は特定子会社となりました。なお、同社は2021年1月8日付で商号をISM0 Pte. Ltd.に変更しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	海外 通信事業	フィリピン 国内 通信事業	国内 通信事業	在留フィリ ピン人関連 事業	医療・美容 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	951,550	606,885	2,406,676	155,597	635,828	4,756,539	—	4,756,539
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	131,492	—	—	689	—	132,182	△132,182	—
計	1,083,042	606,885	2,406,676	156,287	635,828	4,888,721	△132,182	4,756,539
セグメント利益 又は損失(△)	359,600	70,799	259,374	△53,058	195,441	832,157	—	832,157

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	海外 通信事業	フィリピン 国内 通信事業	国内 通信事業	在留フィリ ピン人関連 事業	医療・美容 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	3,324,713	776,836	2,774,093	63,494	369,121	7,308,259	—	7,308,259
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	107,427	317,430	—	7	—	424,865	△424,865	—
計	3,432,141	1,094,266	2,774,093	63,502	369,121	7,733,125	△424,865	7,308,259
セグメント利益 又は損失(△)	1,056,115	287,860	402,879	△47,638	26,018	1,725,236	—	1,725,236

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。